



学校 日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

2010 vol.01

Research Institute for Women and Careers

NEWS LETTER

RIWAC



所長あいさつ

研究所が開設して2年。
研究所の研究・教育支援は目に見えて活発になり、学内外からの問い合わせも増えてきています。さらに研究所事業をご理解いただくために、このニュースレターをお届けします。

本研究所では女性のキャリアアーカイブの構築をめざしています。
資料のご提供をおまちしています。

RIWAC

現代女性キャリア研究所

東京都文京区目白台 2-8-1 〒112-8681

TEL 03-5981-3380 FAX 03-5981-3381

E-mail : riwac@fc.jwu.ac.jp

<http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/riwac/>

2009 年度 現代女性キャリア研究所 公開講演会・シンポジウム 開催

『女性のライフコースとキャリア開発—女子大学の役割—』

12月12日、目白キャンパスにおいて、本研究所公開講演会・シンポジウムが開催されました。約100名の参加者のもと、東京大学佐藤博樹先生による正鵠を射た講演があり、続いて、日本女子大学のキャリア支援の現況について各担当責任者6名からの報告がなされ、今後の連携を図る上で有意義な場を持つことができました。(文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業「女性とキャリアアーカイブ」・本学総合研究所研究課題39「女性の社会進出と生涯学習の意義」共催)



2008 年度 現代女性キャリア研究所 公開講演会・シンポジウム 開催

『女性の多様な社会参加を求めて—今、何が課題か—』

2009年1月24日、目白キャンパスにおいて、本研究所開設記念講演会およびシンポジウムが開催されました。同志社大学橋木俊詔先生の明快な講演、続いての大沢真理先生、木本喜美子先生、大沢真知子先生による多様な角度からの女性の社会参加の現状についてのご報告に、会場からも熱心な質問やコメントが寄せられました。このシンポジウムの内容は、2009年度紀要「現代女性とキャリア」に掲載されています。(文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業「女性とキャリアアーカイブ」・本学総合研究所研究課題39「女性の社会進出と生涯学習の意義」共催)

* 研究所各プロジェクトにご協力いただいた方々への謝辞 *

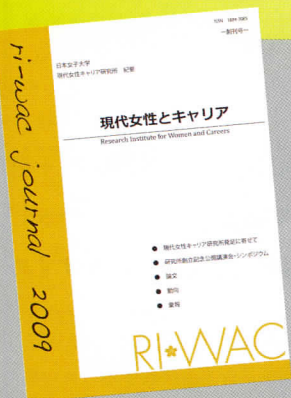
本研究所では、各プロジェクトを進めるに当たり、多くの方々にご協力頂いております。本文公開を承諾して頂いた執筆者、研究機関等、発行元に御礼申し上げます。また科研費研究については、すでに81名の先生方から報告書等資料の寄贈をいただいております。

紀要を配布中です。

こちらの紀要は送料のみ負担いただくかたちでお分けております。ご希望の方は、お手数ですが、切手(1冊290円)を貼った返信用封筒を同封の上、ご希望の冊数を明記し、当研究所へお申し込みいただけますようお願い申し上げます。



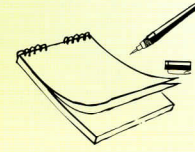
研究所風景



「戦後日本の女性とキャリアに関わる文献・資料調査とデジタル保存」プロジェクト

■具体的な取り組み

- 女性とキャリアに関する調査資料・報告書の収集
- その書誌情報のデータ・アーカイブ化



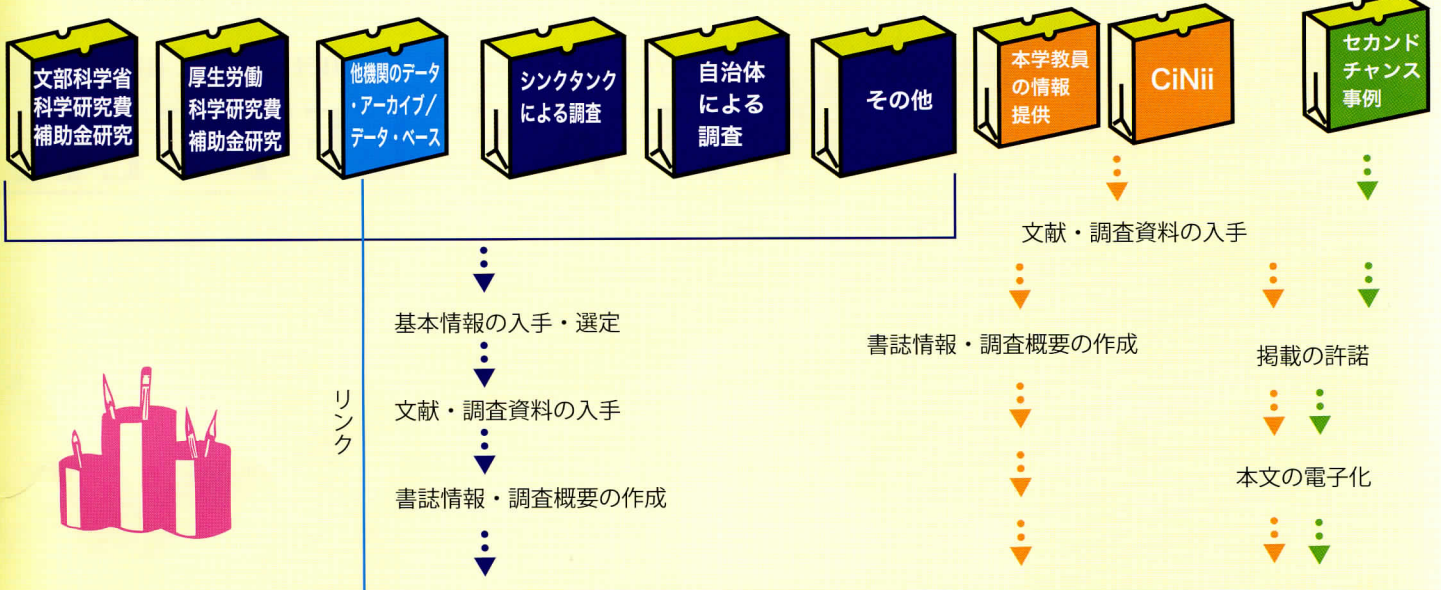
■コンテンツ

①社会調査

②日本女子大学 卒業生調査

③女性のセカンド チャンス経験事例

1975年以降女性とキャリア（広義）に関する調査資料・報告書のデータ収集



日本の女性研究に資する情報の拠点

■プロセス

①社会調査

(1) 検索サイトへのアクセス

以下に提示する複数のデータベース（DB）において、「女性とキャリア」に関するキーワードで検索を行う。検索キーワードは「女性（婦人）」&「労働」「就業」「就労」「キャリア」「ライフコース」。

【対象データベース】

科学研究費補助金研究DB、厚生労働科学研究成果DB、SSJDA、JILPTの調査研究DB、NIRAシンクタンク情報研究成果DB、OISR、WINET、東京ウイメンズプラザ図書資料DB、女性と仕事の未来館調査研究DB、各都道府県および政令指定都市の公立図書館DB。

(2) 基本情報の入手

各データ・ベースやHPにて得られた基本情報を入手し、対象基準から外れると思われるものは除外し、調査資料の入手リストを作成。



(3) 調査資料の入手

調査資料は、調査主体や関係者への調査報告書への寄贈依頼による入手のほか、国立国会図書館など、図書館での資料閲覧、諸機関HPからのダウンロードによって入手する。また他のデータ・アーカイブに協力を依頼し、調査概要を記載したページとリンクする形もとる。

(4) 調査の書誌情報の入力

入手した資料をもとMS-Excelに入力し、保存する。ファイルメーカーを用いて、ユーザーが見やすい形に変換し、入力内容の精査を経てweb上で公開する。



②日本女子大学卒業生調査

(1) 対象となる調査

- 女性とキャリアに関する質問項目のある日本女子大学卒業生及び在校生調査。
- 学部生・大学院生のみによる調査は今回の対象から除外。

(2) 調査情報入手

- 現代女性キャリア研究所研究メンバー、日本女子大学卒業生調査（以下、調査）掲載論文・報告書執筆者の先生方に、既存の調査と掲載論文・報告書等について情報を頂く。
- CiNii を利用し、調査が掲載されている論文を探す。
- 論文・報告集等に記載されている情報をもとに、他の調査に関する情報を収集する。

(3) 資料収集

- (2)の方法で検索した調査掲載論文・報告書等の書誌情報をもとに、現物を収集する。



(4) 調査掲載論文・報告書等の書誌情報と調査概要の入力

- 入手した資料をもとに、MS-Excel に入力し、保存する。
- ファイルメーカーを用いて、ユーザーが見やすい形に変換し、入力内容の精査を経てweb 上で公開する。

(5) 調査掲載論文・報告書等の本文電子化

- 著者・発行者（機関）・出版社などに書面で諾否をうかがう。
- 許諾を得られた論文・報告書等をweb 上で公開する。



「女性のセカンドチャンス」プロジェクト



広い意味での女性のセカンドチャンス経験を捉えるため、2007年12月に全国の女性センターおよび類似機関へ公募ポスター、チラシを配布し、本学HPでも「女性のセカンドチャンス」経験事例手記募集を呼びかけました。2008年1月には朝日新聞に公募を掲載しました。

その結果、北海道から九州まで、30~70代までの189名の応募がありました。望まない職業キャリアの中断や変更が迫られる現実のなかで、女性たちが自らのライフコースをどのようにとらえセカンドチャンスに挑戦しているのか、貴重な経験事例を得ることができました。このうち30事例を冊子にまとめ多くの方々から好評を頂き、自治体男女共同参画室などの取材もありました。

現在、アーカイブ化事業の一環として、同意を得られた方の事例を本研究所のHPにアップする方向で作業を進めています。

資格調査



上記の事例には、女性のセカンドチャンスにとって資格が有効であることが多く書かれていました。このため、2009年8月にセカンドチャンス応募者に対して「セカンドチャンスと資格取得に関する調査」を郵送で行いました。

有効回答130票のうち、平均すると1人当たりおよそ4つの資格を取得していることがわかりました。このうち、セカンドチャンスにもっとも有効だったのは教職に関わる資格であることなどがわかりました。また、資格は取得できても、年齢や経験不足が再出発の大きな壁となっているという厳しい現実も明らかになりました。

インタビュー調査



2009年9~11月に、セカンドチャンス応募者のうち首都圏近郊在住の36名にインタビュー調査を実施しました。事例には十分に書き尽くすことができなかったそれぞれの経験や、それについての解釈や意味づけを1~2時間にわたって語ってもらいました。インタビュー調査、上記の事例、資格調査を併せて、女性たちのセカンドチャンスへの挑戦を立体的に把握することを目的として、分析をすすめています。